〈小学校 国語〉



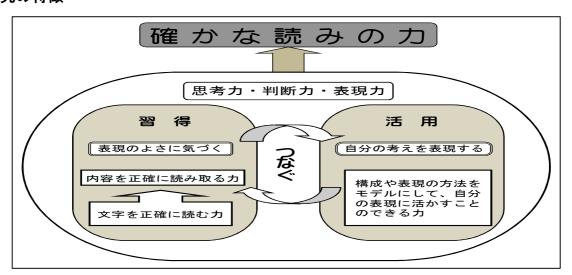
確かな読みの力を育てる学習指導の工夫 ―説明的な文章の学習を通して―

糸満市立糸満小学校教諭 金 城 裕 子

1 研究テーマについて

これまでの授業実践を振り返ってみると、説明的な学習の指導においては、意味内容を追う授業展開になってしまい、読むことへの意欲付けや内容を読み取る手だてが不十分であった。そこで、児童が意欲的に学習に取り組めるように、音読活動や書く活動の学習指導を工夫することで、「確かな読みの力」を育てることができるのではないかと考え、本研究を進めることにした。

2 研究の特徴



3 指導の実際



文字を正確に読む



内容を正確に読み取る



読み取りで学んだことを 活かして説明文を書く

4 研究の成果

音読活動や書く活動を取り入れた学習指導を工夫することで、文字を正確に読む力や内容を正確に 読み取る力が育ってきた。また、読み取りで学んだ表現の工夫を自分の文章にも活かして説明文を書 くことができた。さらに、習得した表現を活かして相互交流を行い、習得と活用を往還することで、 確かな読みの力が育つことが分かった。

確かな読みの力を育てる学習指導の工夫

―説明的な文章の学習を通して一

糸満市立糸満小学校教諭 金 城 裕 子

I テーマ設定の理由

[国語科に求められること]

小学校学習指導要領における国語科の目標の一つは、「国語を適切に表現し、正確に理解する能力の育成」である。国語科の基礎・基本は、全ての学習の基礎となるものであり、書かれている内容を正しく理解するためには、書かれている文字を正しく読むことが前提となる。文章をすらすら読めるようにする指導は、国語科で第一に優先されるものであると考える。つまり、書いてあることを正しく理解するために、「文字を読む」、「内容を読み取る」という両面からの読みの指導をすることが重要である。しかし、OECD(経済協力開発機構)が実施した国際的な学習到達度(PISA)調査では、日本の子どもたちの「読解力」等の課題が見られる。その課題を踏まえて、小学校学習指導要領では、「生きる力」を育むことを目指し、言語活動を充実させることにより、児童の思考力・判断力・表現力を高めようとしている。学力の最も基本となる国語科においては、今まさに読解力の育成が求められているのである。

児童の実態

学級においては、本や文章をすらすらと読めるように、音読活動を取り入れてきた。その結果、物語文では、「雨の日のおさんぽ」や「ニャーゴ」などの教材で、登場人物になりきって読んだり、動作化をしたりしながら音読活動に取り組んでいた。しかし、一人読みになると拾い読みをしたり、新しい単元の文章では、句読点に気を付けて読めない児童が見られた。また、説明的な文章の学習では、全員で読み進めると大体の内容は理解することができたが、大事な語や文を自分で見つけることに個人差が見られ、読みの基礎が定着していなかった。

これまでの実践より

これまでの授業実践を振り返ってみると、意味内容を追う授業展開になってしまい、読むことへの 意欲づけが不十分であったように思う。また、課題意識を持たせながら、内容を読み取る手だても不 十分であったのではないかと考えられる。その原因として、音読活動を効果的に取り入れる工夫が足 りなかったことや低学年の説明文で重要な働きをする順序を表す言葉や主語と述語の関係の押さえが 弱かったことなどが挙げられる。その結果、児童に音読の楽しさを味わわせることができず、正確に 読む力を十分身に付けさせることができなかったと考えられる。

本研究において

そこで、本研究では、二年生の説明的な文章の学習で、音読活動や書く活動を取り入れた学習指導を工夫することで、児童が意欲的に学習に取り組み、「確かな読みの力」を育むことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

低学年国語科の説明的な文章の学習において、次のような手だてを行えば「確かな読みの力」が つくであろう。

- (1) 音読活動を工夫し、音読の楽しさを味わわせることによって、文字を正しく読む力を育てる。
- (2) 書く活動を取り入れた学習指導を工夫することによって、確かな読みの力を育てる。

2 検証計画

事前に国語科に関する意識調査を行い、児童の実態を把握する。検証授業を2学年説明的な文章「せかいのかくれんぼ」で15時間行う。毎回の検証授業後、ワークシートの点検を行い、児童の学習理解の状況を把握し、その後の教材研究や授業実践に活かす。音読活動や書く活動を取り入れた学習指導の工夫は、確かな読みの力を育てることにつながっているのかを考察する。そして、全ての検証授業終了後に事後調査を行い、事前調査との比較をして、本研究の有効性を検証する。

・調査内容:国語科の授業に関する意識調査 (アンケート)

・調査時期:検証授業前(12月)

調 ・調査対象: 糸満小学校2学年 59人(2年1組 31人)(2年2組 28人)

検証授業の対象:糸満小学校2年2組(男子14人 女子14人 計28人)

単 元 名:いろいろなあそびについて話し合おう 「せかいのかくれんぼ」 15 時間

| 検証授業 | 検証場面 | 検証の観点 | 主な検証方法 |
|-----------------|--|--|---|
| 「せかいの かくれんぼ」 | ・音読活動 (一斉読み・交代 読みなど) | (1)語のまとまりや言葉の響きなどに気を つけて音読することができたか。 | ・授業観察・ワークシートへの記述 |
| 15 時間 | ・書く活動 | (2) 書かれている内容を正しく理解する ことができたか。読み取ったことを活か して表現することができたか。 | ・児童の発表・自己評価カード |

事後

調

査

前

・調査内容:国語科の授業に関する意識調査(アンケート)・単元テストの結果

•調査時期:検証授業後(2月)

·調査対象: 糸満小学校2学年 59人(2年1組 31人)(2年2組 28人)

検証の視点:音読活動や書く活動を取り入れた学習指導の工夫は,確かな読みの力を育てることができたか。

Ⅲ 研究内容

1 「確かな読みの力を育てる」について

(1) 「確かな読みの力」とは

小学校学習指導要領では、児童の思考力、判断力、表現力をはぐくむ観点から基礎的基本的な知識及び技能の活用を図る「活用型」の学習が重視されている。また、「活用型学力」の基盤となる言語能力の育成について「小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱・漢字の読み書きなど基本的な力を定着させる」と、知識技能の習得の必要性も中央教育審議会の答申で述べられている。

このような活用と習得の学習について竹長吉正氏は、「新しい授業では、従来のような『習得』と『活用』の分断ではなく、両者をスムーズにつなぎ、かつ両者を往還する授業が期待される。」と提言している。つまり、これから求められる読解力は、読み取りで正しく理解するだけでなく、さらに表現できる力を育成することが重要となってくる。文字を正確に読み、読みの方法・技能を習得させ、「読む」ことによってついた力を「書く」ことに活かす活用型学習が「確かな読みの力」を育てることであると考える。

そこで本研究においては、説明的な文章の「確かな読みの力」とは、『文字を正確に読む力』や何がどのように書いてあるか『内容を正確に読み取る力』を育てるだけでなく、そこで使われている『構成や表現の方法をモデルにして自分の表現に活かすことのできる力』」と、とらえる。このような読みの力をつけていくことによって、実生活に生きて働く言語力も育成できると考える。

授業においては、児童に「確かな読みの力」をつけるために、次のようなことに重点を置いて 学習を進める。音読の形態を工夫することにより、音読の楽しさを味わわせ、意欲的に音読活動 に取り組み文字を正確に読めるようにする。また、内容の読み取りにおいては、読み取りの手が かりとなるキーワードに気付かせ、順序を表す言葉や主語、述語の働きに着目させる。さらに、友達と交流させて読みを深化させ、「私ならこう書く」と表現へ向かう読みをさせる。そこでは、習得した構成や表現の方法を活用して、自分の文章に活かすことのできる力が育つと考える。このように、習得と活用をつなぎ、往還することで「確かな読みの力」が育つことになる。

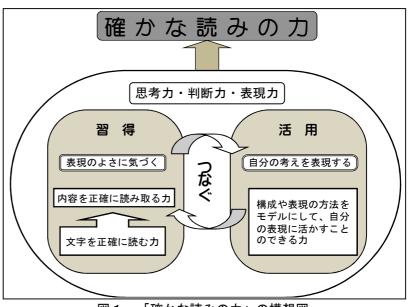


図1 「確かな読みの力」の構想図

(2) 小学校学習指導要領における「国語科の目標」及び「読むこと」の内容

国語科の目標「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」を受けて示された「読むこと」の目標と内容は、以下の通りである。

| | 第1学年及び第2学年 | 第3学年及び第4学年 | 第5学年及び第6学年 |
|--------|---|---|--|
| 目標 | (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 | (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。 | (3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 |
| | (1) 読むことの能力を育てるため, | 次の事項について指導する。 | |
| 音読 | ア 語のまとまりや言葉の響きな どに気を付けて音読すること。 | ア 内容の中心や場面の様子がよ く分かるように音読すること。 | ア 自分の思いや考えが伝わるよ うに音読や朗読をすること。 |
| 読み物な | | | イ 目的に応じて、本や文章を比べ て読むなど効果的な読み方を工 夫すること。 |
| 文章の解釈 | イ 時間的な順序や事柄の順序など を考えながら内容の大体を読むこ と。 | イ 目的に応じて、中心となる語や 文をとらえて段落相互の関係や事 実と意見との関係を考え、文章を 読むこと。 | ウ 目的に応じて,文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり, 事実と感想,意見などとの関係を押さえ,自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 |
| 文章の解釈 | ウ 場面の様子について、登場人物 の行動を中心に想像を広げながら 読むこと。 | ウ 場面の移り変わりに注意しながら,登場人物の性格や気持ちの変化,情景などについて,叙述を基に想像して読むこと。 | エ 登場人物の相互関係や心情,場面についての描写をとらえ,優れた叙述について自分の考えをまとめること。 |
| 形成及び交流 | エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 | エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 オ 文章を読んで、考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 | オ 本や文章を読んで、考えたこと を発表し合い、自分の考えを広げ たり深めたりすること。 |

| じた読書 | カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 | カ 目的に応じて、いろいろな本や 文章を選んで読むこと。 | カ 目的に応じて,複数の本や文章 などを選んで比べて読むこと。 |
|-------|---|--|--|
| | (2)(1)に示す事項については、例えば | 、次のような言語活動を通して指導す | るものとする。 |
| 言語活動例 | ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること | ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。 オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。 | いて考えること。 イ 自分の課題を解決するために、 意見を述べた文章や解説の文章 などを利用すること。 ウ 編集の仕方や記事の書き方に 注意して新聞を読むこと。 エ 本を読んで推薦の文章を書く |

指導事項が2学年まとめて示されているのは、国語科の指導内容が、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としているからである。 本研究における授業実践においてもその系統性を重視し、<u>指導事項のア、イ、エ、オ</u>の力を身に付けさせたいと考える。

2 説明的な文章の学習について

(1) 説明的な文章の定義

説明的な文章とは、国語教育研究大辞典では、巳野欣一氏が、次のように定義している。「ある 事柄について、よく知っている表現者が、その事を全く知らないか、よくは知らない相手に対し て、事柄を整理し、順序立てて分かりやすく説き明かす文章をいう。相手に理解されることを目 的とした知的な言語活動であり、正確な内容と客観性が求められる。」また、藤田伸一氏は、説明 的な文章の種類を次のように具体的に示している。

〈説明文とは〉 ~事実に基づいて書かれたもの~○説明文 ○観察・記録文 ○伝記 ○報告文 ○手紙文 ○感想文 ○意見文 ○紀行文○評論文 ○批評文 ○解説文 等 『論理的思考力を育てる説明文の授業』

(2) 説明的な文章の学習の意義

新学習指導要領の国語科の改善の基本方針は、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること」の重要性が示されている。藤田伸一氏は、説明的な文章の指導のねらいを次のように、4つ挙げている。

説明的な文章の指導のねらい

- ア 読みを通して対象の本質にせまり、自然や社会、人間や文化を認識する。
- イ 書き手の認識思考,論理の展開を吟味し論理的思考力をつける。
- ウ 科学的な概念形成を図り、理論言語を獲得する。
- エ 論理的思考力と理論言語を駆使して、論理的に表現できるようにする。

つまり、これからの国語科で求められている論理的な思考力、表現力を育成するためには、説明的な文章の学習が効果的であると考えられる。そこで、指導内容の系統性や身に付けさせたい力を明確にして指導する必要がある。

(3) 説明的な文章における読みの基礎・基本

白石範孝氏は、「説明文の読解力向上を図る授業作り」で説明文の読解力を**表1**のように分析している。表中の「身に付けさせたい力」を説明文の基礎基本とらえ、指導過程で押さえることが重要である。

表1 富士見スキル(説明文の読解力)

| | | | 低学年 | 中学年 | 高学年 | |
|-------------------|---|--|--|--|---|--|
| 身につけ させたい 力 | | せたい | ◎「問い」と「答え」の文を自分で見つける。◎段落の仲間作りをして、「はじめ」「中」「おわり」の構成に気づく。◎学習したことを、自分の表現に生かす。 | ◎段落ごとに要点をつかみ,意味のまとまりをとらえる。◎段落相互の関係をつかみ,文章の構成をとらえる。◎筆者の考えを受けて,自分の感想をもつ。 | ◎要旨を正しく読み取る。◎要旨を受けて,自分の思いや考えをもつ。◎自分の考えを見直し,深める。 | |
| | 1 | 「問い」 と「答 え」の文 に 気 く 技術 | a, 文末表現に着目して「問い」と 「答え」を見つける。 | a, 「問い」に対する「答え」を見つける。 b, 話題提示 (問題提起) の段落に気づく。 | a, 話題提示 (問題提起) の段落を見つける。b, 話題提示 (問題提起) に対するまとめ(答え)の段落を見つける。c, 筆者に問いかけながら読む。 | |
| 読みのスキル | 2 | 段落を とらえ る技術 | a, 形式段落をとらえ,番号をうつ。 b, 順序(時間・事柄)を表す言葉 に着目する。 c, 内容を比べながら読む。 d, 「問い」と「答え」の文を作る。 | a, キーワードやセンテンスを見つける。 b, キーワードやセンテンスをもとに, 要点を短い文にまとめる。 (3年) c, 要点をもとに, 意味のまとまりに気づく。 d, 意味段落の内容をまとめる。 (4年) e, 「問い」の文を作る。 | a, 意味段落の内容をつかむ。 b, 文章構成から要旨の段落をつかむ。 | |
| | | 構成を とらえ る技術 | a, 挿絵や写真を叙述と結びつけて, 説明されている事柄を読む。b, 段落の仲間作りをする。c, 「はじめ」「中」「おわり」の構成に気づく。(2年) | a, 意味のまとまりをもとに, 段落相互の 関係をつかむ。b,「初め」「中」「終わり」の構成をとら える。c, 文章構成図に表す。(4年) | a, 「序論」「本論」「結論」のま とまりをとらえる。 b, 「序論」「本論」「結論」のそ れぞれの役割と相互関係をとら える。 | |
| | | 表現を読み取る技術 | a,文末表現・指示語・接続語の役割を理解する。 b,主語と述語の関係を理解する。 | a, 文末表現・指示語・接続語の役割を理解する。 b, 事実と筆者の考えや感想を読み分ける。 c, 筆者の述べ方や説明の仕方の特徴をとらえる。 | a,文末表現・指示語・接続語の役割を理解する。 b,事実と筆者の考えや感想を読み分ける。 c,具体的な内容と抽象的な表現を読み分け,要旨をとらえる。 d,筆者の述べ方や説明の仕方の特徴をとらえる。 | |
| | 5 | 自分の 考えを 表現す る技術 | a, 学んだ文型を使って, 簡単な説 明の文を書く。 | a, 自分の経験や体験と比べて, 感想をもつ。(3年) b, 筆者の考えをもとに, 叙述に即して自分の感想をもつ。(4年) | a、要旨をわかりやすい言葉で書き表す。(5年) b、構成を工夫して要約文を書く。(6年) c、叙述に即して根拠を明らかにしながら、要旨に対する自分の考えをもつ。 | |

3 学習指導の工夫について

(1) 音読活動の工夫について

愛知教育大学教職大学院教授の佐藤洋一氏は、「音読―言語情報の正確な理解」で次のように述べている。「正確に意味のまとまりごとに早く『音読』ができることが基礎の基礎である。内容やキーワードも読み取れないままでは高度な探究学習はできない。音読は、誤読や教材・単元の理解度の診断、子どもの関心理解、主要な概念と学びの習得レベルなどを把握するのにも役立つ。」文章の読み取りにおいて、何が書いてあるかを理解するためには、文字を正確に読むことが基礎・基本となり、「確かな読みの力」の土台となる。そこで、音読をすることの楽しさを味わわせながら、文字を正確に読む力を身に付けさせたい。音読活動には下記のような形態が考えられる。読みの過程に適切に組み合わせながら楽しく学習し、読みの力を付けていきたい。

表 2 音読活動の形態

| 形態 | 活動内容 | 利点 | 留意点 |
|-------|--|---|--|
| 範読を聞く | ・これから学習する教材の 全体を教師が音読する。 | ・内容全体をイメージすることができる。・新しい言葉や漢字を知ることができる。 | ・新出漢字や分からない語句をチェックさせながら聞かせる。・姿勢や発声が児童の手本となるようにする。 |
| 追い読み | ・一読点ずつ、一文章ずつ、 教師やリーダーの後に続けて音読する。 | ・教師が間違い読みを確認できる。・音読のリズムやテンポを覚えることができる。 | ・読めない児童には、側に行って読 んでいる箇所を指で示したり、近 くで読む等の支援を行う。 |

| 交代読み | ・一文ずつ、1ページずつ 友達同士で交代で音読する。・教師対児童で一文ずつ交 代で音読する。 | ・教師が漢字の読み間違い、誤読を確認できる。・聞かせる相手がいる活動なので多少の緊張感を持ちながら音読を行うことができる。・少人数での活動なので、大勢の前で萎縮する児童でも読むことができる。 | ・教材の特徴やねらいに応じて一対 ーやグループ内で読み合う形態で 行う。・教師対児童で行う時は速読で行う。 (内容理解のため) |
|------|---|---|--|
| 一斉読み | ・全員で音読する。 | ・全員の声がそろうことにより,一体感や充 実感を得ることができる。 | ・読めない児童には、側に行って読 んでいる箇所を指で示したり、近 くで読む等の支援を行う。 |
| 一人読み | ・一人で一段落, 1ページ, 全文を音読する。 | ・教師が漢字の読み間違い、誤読を確認できる。・それぞれに行う場合は自分のペースで読むことができる。 | ・発表形式にするならば、ある程度 自信を持たせてから臨ませる。 |
| 役割読み | ・物語の役割を決めて音読する。 | ・役の気持ちを考えさせながら行うので内容 理解を促すことができる。 | ・グループ単位の活動で行う。 |

[※]教科書の題名の横に \bigcirc を 10 個書かせ、一回読むごとに色を塗らせることで回数確保をすることができる。

(2) 書く活動を取り入れた学習指導の工夫

① 内容を読み取るための書く活動

相澤秀夫氏は、「読み書き関連で思考力を鍛える」で、次のように述べている。「書く活動を通して、自分と向き合い自分を確かめつつ、自分の考えを言葉で確かめることのできる力(考えをもつこと)や筋道立てて考えを整理する力(論理的な思考力)、その考えを適切に(様々な条件等に応じて)よりよく言語化(文字化)するために言葉や表現を吟味・検討できる力などが求められる。」

つまり、読みの過程で、「書く活動」を取り入れることは、自分の考えを確かめたり、整理したりしながら読みを深めることになり、「確かな読みの力」につながると考える。低学年における読みの学習での書く活動例と内容を**表3**にまとめる。

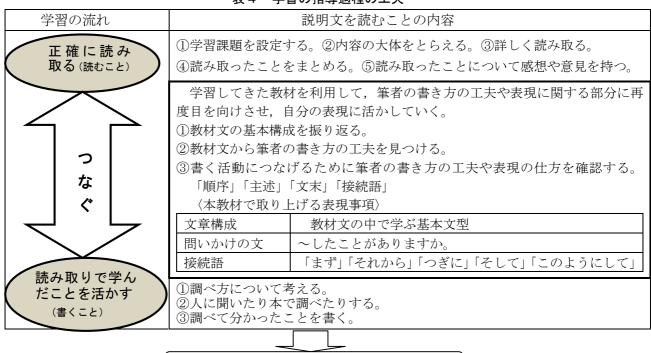
表3 低学年の読みの学習での書く活動と内容

| 書く活動 例 | 内 容 |
|------------------|---|
| 視写 | ・目的によって全体視写と部分視写をすることができる。視写をすることによって、文章の内容を 正確につかんだり、主述の対応、繰り返し出てくる語句、文末表現の違い等、様々なことに気付 いたりすることができる。 |
| サイドライン | ・重要語句や中心文などにサイドラインを引くことで、叙述に即して内容を読み取ることができる。 |
| 書き込み | ・文章を読んで感じたことや分かったこと、疑問に思ったことなどを行間や余白に書き込み、文章 理解の過程において書くことを通し、読みを深めることができる。 |
| 自分の考えを 書く(感想) | ・初発の感想を書かせたり、学習後の感想を書かせたりすることで読みの深まりを評価することができる。 |
| 書き抜き | ・本文の中から大事な言葉や文を書き抜くことによって、情報を取り出すことができる。 |
| イメージマップ | ・言語連想による思い出し活動を中心とした言葉の概念作りができる。この活動により、語彙の広がりと知識の広がりが期待される。 |
| 絵を描く | ・読み取ったことを絵に描かせることで、楽しく内容を読み取ることができる。 |
| ワークシート | ・ワークシートを活用して、大事な言葉を書き込ませたり、表にまとめたりすることで、文章の内容を正確に読み取ることができる。 |
| 自己評価 | ・学習後の自分の学びの様子を観点ごとに振り返ることによって、学びを確かめることができる。 |

② 読み取りで学んだことを書くことに活かす指導の工夫

活用型学習となる確かな読みの力を身に付けさせるために、「読むこと」と「書くこと」をつなぐ学習の工夫をする。まず、単元の最初に単元全体の流れを知らせ、「読むこと」と「書くこと」の活動の関連を意識付ける。説明的な文章の読み取りに関しては、事柄の順序や文章表現上の順序に沿って内容の大体を読んで理解することが重要である。その後、読み取りで学んだ基本文型や接続語を活用して、説明文を書かせる。つまり、説明の文章を「書く」という目的意識を持たせることによって、教材の説明的な文章を「読む」意欲が高まり、その「読む」ことによってついた力が「書く」ことに活かされると考える。こうした一連の学習過程を通して、確かな読みの力が身に付くと考える。

表 4 学習の指導過程の工夫



調べたことについて紹介し合う

Ⅳ 授業の実践

1 検証授業の実際

| 口 | 月 日 | 校時 | 検 証 項 目 | 検証方法 |
|----|-----------|----------|----------------------------|--------------|
| 1 | 1月11日 (火) | 3校時 | │ │ ①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付 | • 授業観察 |
| 2 | 1月12日(水) | 2校時 | けて音読することができたか。 | ・ワークシート |
| 3 | 1月13日(木) | 1・2校時 | ②書かれている内容を正しく理解すること | ・自己評価 カード |
| 4 | 1月14日(金) | 1校時 | ができたか。読み取ったことを活かして | × 1 |
| 5 | 1月17日(月) | 3校時 | 表現することができたか。 | |
| 6 | 1月18日 (火) | 3校時 | | |
| 7 | 1月19日(水) | 1校時 | | |
| 8 | 1月21日(金) | 2校時 | | |
| 9 | 1月24日(月) | 1・2 校時 | | |
| 10 | 1月25日(火) | 2 · 3校時 | | |
| 11 | 1月26日 (水) | 2 · 3 校時 | | |

2 検証授業本時の指導案

- (1) 単元名 いろいろなあそびについて 話し合おう
- (2) **教材名** 「せかいのかくれんぼ」 東京書籍「2年下」
- (3) 単元設定の理由
 - ①教材観(省略)
 - ②児童観(省略)
 - ③指導観

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」ことである。特に本教材では、遊び方の順序を正しくとらえることが重要となる。

そこで、指導にあたっては、第1次で、児童がかくれんぼについて知っていることを出し合うことで興味を広げ、教材文へとつなげていきたい。自分たちの国の遊びである「かんけり」と他の国のかくれんぼ遊びとを比べながら、その遊び方の違いやおもしろさ等に気付かせていきたい。そのためには、まず児童と「かんけり」をして遊び、この遊びの楽しさをしっかり味わわせたい。実際に遊ぶことで、児童は、遊びの順序等について理解できるであろう。「かんけり」の遊び方や楽しさを知ることは、他の国の遊び方を読み取り、それぞれのやり方で楽しんでいることを理解するために、必要不可欠であると考える。

第2次では、それぞれのかくれんぼで準備するものや遊び方を読み取りながら、共通点や相違点をとらえさせたい。読み取りにおいては、読み取りの手がかりとなるキーワードに気付かせ、順序を表す言葉や主語、述語の働きに着目させたい。また、筆者の表現の工夫にも気付かせて、第3次の遊びについて調べたことを説明文にまとめて書く活動につなげていきたい。第4次では、遊び方の工夫を話し合う活動を通して、話し合いの時に気を付けることを押さえながら学習を進めていきたい。第5次の遊びの工夫を紹介する活動では、自己の表現を振り返ったり、友達の表現のよさを学んだりさせたい。学習のまとめでは、習得した表現を実生活に活かして、学習の成果を実感させたい。

(4) 単元の指導目標(観点別評価規準)

- ① 単元の目標
 - ○事柄の順序に注意しながら、書かれている内容を読み取る。
 - ○人に聞いたり本で調べたりしたことをふまえて、遊びを楽しくするための工夫を考え、話し 合う。

② 観点別評価規準

| 観点 | 評価規準 |
|----------|---|
| 国語への関心・ | ○いろいろな国のかくれんぼについて興味を持ち、進んで遊び方について調べたり、読 |
| 意欲・態度 | み取ったりする。 |
| 話す・聞く能力 | ○何について話し合うのかはっきりさせて、話題に沿って分かりやすく話している。 |
| 書く能力 | ○遊びに必要な要素を正しくとらえ、整理して分かりやすく書く。感想や自分の考えを |
| | 進んで書く。 |
| 読む能力 | ○かくれんぼの準備や遊び方を考えながら読んでいる。 |
| 言語についての | ○聞き手に伝わるようにはっきりとした発音で、丁寧な言葉遣いで話す。 |
| 知識・理解・技能 | |

(5) 学習指導計画と評価計画(全 15 時間)

| | (3) 于自相等前四乙計21121212121212121212121212121212121212 | | | | |
|-------------|--|-------------------------------|---|-------------------------------|------------------------------|
| 次 | 時 | 学習計画 | 評価規準【観点】 (評価方法) 検証の観点 | A 十分満足できる | C 努力を要する 個への指導の手だて |
| | | - 事前テスト | (計画がな) (火血・シ酸ホ | | 個、10月407千亿(|
| | | ○全文を読んで、これから | | 児童の経験や知ってい | ・かくれんぼのどんなと |
| | | の学習に関心を持つ。 | て興味を持って、文章を | るかくれんぼの種類な | ころが楽しいか、文章 |
| | | 題名について知っている | , | どについて進んで発表 | 中に紹介されている遊 |
| | 1 | ことをイメージマップ | 読もうとしている。 | | |
| | | に書く。 | 【関】(行動観察・発言) | し、学習に意欲的に取 | びでやってみたいもの |
| 第 | | ・新出漢字を確かめる。 | 範読、追い読み | り組んでいる。 | はどれか問いかけ興味 |
| 71 | | ○掛け立た注)が成相た | イメージマップ ・自分なりの感想を持ち、 | <u></u> ・初めて知ったことや調 | や関心を高めさせる。 ・友達の感想を参考にし |
| V/-> | | ○教材文を読んだ感想を | | * | , |
| 次 | | 話し合い、今後の学習計画なって、見るした特な | 学習計画を立て,具体的 | べてみたいことなど意 | たり, 文中の言葉や挿 |
| | 2 | 画を立て、見通しを持た | な学習の見通しを持と | 欲的に感想を書き、学 | 絵を手がかりにして感 |
| | | せる。 | うとしている。【関】(感 | 習計画を立て、具体的 | 想を書かせ、学習の見 |
| | | | 想ワークシート) | な学習の見通しを持と | 通しを持たせる。 |
| | | | 一斉読み・交代読み 初発の感想を書く | うとしている。 | |
| | | ○教材文の構成を大まか | ・教材文の構成を大まかに | ・4つの文章のまとまり | ・挿絵と対応させたり文 |
| | | にとらえ, いろいろな国 | とらえ, 書かれているこ | をとらえてあらすじを | 章の書き出し「フィン |
| | 3 | のかくれんぼについて | との大体を理解してい | つかむことができる。 | ランドには」「インドネ |
| | Э | 書かれていることの大 | る。【関】(ワークシート) | | シアには」という言葉 |
| | | 体を知る。 | 一斉読み | | に着目させたりして大 きなまとまりがあるこ |
| | | 11 277 20 | サイドライン・ワークシート | | とを理解させる。 |
| | | ○問題提示の文章を読み, | ・かんけりは, 缶を使う日 | かんけりは、缶を使う | 挿絵と対応させて、缶 |
| | | 日本のかくれんぼ「かん | 本の遊びであることを | 日本の遊びであること | けりは、缶を使う日本 |
| | 4 | けり」について考える。 | 読み取る。【読】(ワーク | を正しく読み取ること | の遊びであることを理 |
| | 4 | | シート) 交代読み | ができる。 | 解させる。 |
| | | | サイドライン・ワークシート | | |
| | | ○フィンランドのかくれ | ・フィンランドのかくれ | ・フィンランドのかくれ | ・準備するものや遊び方 |
| | | んぼ「ハンター」の準備 | んぼについて, 準備する | んぼについて,準備す | に分けて、必要な事柄 |
| | 5 | する物や遊び方を読み | 物や遊び方を順序に気 | る物や遊び方を順序に | にサイドラインを引か |
| 第 | _ | 取る。 | を付けながら読み取っ | 気を付けながら正しく | せてからノートにまと |
| <i>7</i> 77 | | | ている。【読】(ワークシ | 読み取っている。 | めさせる。 |
| | | | ート) 交代読み | | |
| 次 | | | サイドライン・ワークシート | | |
| | | ・インドネシアのかくれん | ・インドネシアのかくれん | ・インドネシアのかくれ | ・準備するものや遊び方 |
| | | ぼ「プンタックウンプッ | ぼについて, 準備する物 | んぼについて, 準備す | に分けて,必要な事柄 |
| | 6 | ト」の準備や遊び方を読 | や遊び方を順序に気を | る物や遊び方を順序に | にサイドラインを引か |
| | | み取る。 | つけながら読み取って | 気をつけながら正しく | せてからノートにまと |
| | | | いる。【読】(ワークシー | 読み取っている。 | めさせる。 |
| | | | ト・発言)交代読み | | |
| | | | サイドライン・ワークシート | | |
| | | ・フィンランドとインドネ | ・フィンランドとインドネ | ・フィンランドとインド | |
| | | シアのかくれんぼを比 | シアのかくれんぼにつ | ネシアのかくれんぼに | に分けて、似ていると |
| | 7 | べて準備や遊び方の共 | いて, 共通点と相違点を | ついて、共通点と相違 | ころと違うところにサ |
| | | 通点や相違点を読み取 | 読み取っている。【読】 | 点を正しく読み取って | イドラインを引かせ |
| | | る。 | (ワークシート・発言) | いる。 | る。 |
| | | | 交代読み | | |
| | | | サイドライン・ワークシート | | |

| | 8 | ・ふだんしている遊びや知 っている遊び,他の国の 遊びなどについて調べ る。 | ・本を読んだり、人に聞いたりして、準備する物や遊び方を調べている。【話聞】 (ワークシート)交代読み ワークシート | ・本を読んだり、人に聞いたりして、準備する物や遊び方を進んで調べている。 | ・準備するものや遊びの 方法について調べるよ うにさせる。 |
|-----|----------|--|--|--|---|
| 第三次 | | ・調べた遊びメモをもとに、順序に気を付けて遊びの説明文を書くことができる。 | ・調べた遊びメモをもとに、順序に気を付けて書くことができる。 【書】(ワークシート) 交代読み 「ワークシート」 | ・調べた遊びメモをもと に、「書き方の技」をと らえて書くことができ る。 | ・「書き方の技」に気付か せて,順序よく書かせ る。 |
| | 10 | ・グループで自分の調べた 遊びをよく分かるよう に紹介し合う。 | ・自分の調べた遊びについて、伝えたいことを明確にして分かりやすく話している。友達の発表を正しく聞き取り、発表の仕方の良かったところを見つけて伝えている。 【話聞】(評価カード・発言) で代読み ワークシート | ・自分の調べた遊びについて、伝えたいことを明確にして大きな声で分かりやすく話している。友達の発表を正しく聞き取り、発表の仕方の良かったところを進んで見つけて伝えている。 | ・紹介する観点や聞き取る観点を黒板に書いたり、評価カードに具体的に示したりして、観点を意識して活動できるようにする。 |
| 第四 | | ・楽しく遊ぶための工夫や 紹介の方法などをグル ープで話し合う。 | ・話題を明確にして話題 からそれないように話 し合っている。友達の話 は最後までよく聞いて いる。【話聞】(評価カー ド・発言) 役割読み ワークシート | ・話題を明確にして話題 からそれないように進 んで話し合っている。 友達の話は最後まで静 かによく聞いている。 | ・常に「何について話し 合うのか」を意識して おくようにする。 |
| 次 | 12 13 | ・意見を出し合い, グループで紹介する遊びの発表練習をする。 | ・紹介の仕方について話 し合い、分かりやすく紹 介するための練習をし ている。【話聞】(話し合 い・行動観察) セ割読み | ・紹介の仕方について進 んで話し合い、分かり やすく紹介するための 練習をしている。 | ・話し合いがスムーズに 進まないグループは, 教師が適宜加わり,司 会役になるなどして支 援する。 |
| 第五次 | | ・グループごとに話し合った遊びの工夫を紹介する。発表を聞いて各グループの発表や遊びの工夫の良いところを発表する。 | ・聞いている人に分かり やすく遊び方の工夫を 紹介している。友達の話 を最後まで聞き,良さを 見つけて伝えている。 【話聞】(話し合い・行動観 察) <u>予読み</u> 相互評価カード | ・聞いている人に,より 分かりやすく遊び方の 工夫を紹介している。 友達の話を最後まで聞 き,良さを見つけて伝 えている。 | ・紹介する観点や聞き取 る観点を意識させるよ うにする。教師は、児 童の気付かなかった良 さを認め、達成感・満 足感が得られるように 言葉かけをする。 |
| | 15 | ・みんなで遊んでみて楽し さや工夫の良さを実感 し、学習のまとめをす る。 ・事後テスト | ・学習を振り返って、感想をまとめている。 【書】(ワークシート) 一人読み 評価カード | ・学習を振り返って,進 んで感想をまとめてい る。 | ・今までのワークシート などを振り返って見る ように促す。 |
| | | ず収/ハド | | | |

3 本時の学習 (9/15時間)

(1) 本時のねらい

調べた遊びメモをもとに、順序に気を付けて遊びの説明文を書くことができる。

(読むこと アイエ)(書くこと ウエ)

(2) 本時の授業仮説 (手だて)

音読活動や書く活動を取り入れた学習指導を工夫することで、確かな読みの力が育つであろう。

- (3) 準備: ワークシート,振り返りカード,教科書,フラッシュカード(漢字),書き方の技カード
- (4) 本時の展開(9/15時間)

| (| 4) 本時の展開 (9/15 時间) | | |
|---------|--|---|-------------------------|
| 過 | 学習活動 | ○ 教師の支援と | ■ 授業仮説の検証の視点 |
| 程 |) H III 39 | 指導上の留意点 | ◇ 評価(評価方法)·準備 |
| 導入 | フラッシュカードで漢字を読む。 前時の学習を想起する。 本時のめあてを確認する。 | ○ウォーミングアップをさせ,漢字を正確に読ませる。○前時で学習した遊びのメモから,どのように調べたのかを想起させる。 | ・フラッシュカード ・めあてカード |
| 5 | | | |
| 分 | 友だちによく分かるように、順序に | 気を付けて遊びの説明文を書きましょう。 I | |
| | 4, 教科書 P 56 を音読する。 | ○読みのめあてを確かめて, どんなこと | ■検証 〈音読活動〉 |
| | 交代読み | が書かれているか,考えながら音読さ | 語のまとまりや言葉の響きな |
| | | せる。 | どに気をつけて音読すること |
| | The state of the s | | ができたか。 |
| | | 音読のめあて 大きな声で 大きな声で 大きな声で 大きな声で | (観察・自己評価カード) |
| 展 | | | ・書き方の技カード |
| | 5,遊びの紹介メモをもとに,遊びの | ○読み取りで学んだ表現の工夫(書き方 | ◇■検証〈書く活動〉 |
| 開 | 説明文を書く。 | の技)を書くことに活かすために掲示 | 遊びの紹介メモをもとに、順 |
| [71] | ○説明文の「書き方の技」を確認す | しておく。 | 序に気を付けて遊びの説明文 |
| 35 分 | る。 ①遊びの順番②順序を表すことば③主語・述語④文末 | | を書くことができたか。 (ワークシート) |
| | 6,「書き方の技」カードで自己評価 | ○「書き方の技」カードで自己評価させ、 | |
| | をして見直しをする。 | 見直しをさせる。 | |
| | 7,遊びの説明文を発表する。 | ○友達の発表を聞いて,良い点や見直し | |
| | | をしてほしい点に気付かせる。 | |
| | 8,本時のまとめをし,振り返りカー | ○説明文を順序に気を付けて書くこと | ・振り返りカード |
| ま | ドに記入する。 | ができたかを振り返らせる。 | |
| ٤ | | ○次時に学習する内容を知らせ, 見通し | |
| め 5 | 9,次時の見通しを持つ。 | と意欲を持たせる。 | |
| 分 | | | |
| /3 | | | |

4 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、児童のワークシートの記述や授業観察を通しての教師の評価 (4件法)、児童の自己評価を基に検証する。表5は児童のワークシートと児童の自己評価から結果をまとめたものである。

| | | 評 価 基 準 | | | | | 検証結果 |
|------|---|---|---|--|--|---|---------------|
| 検証場面 | 検証の観点 | A | В | С | D | 検証の方法 | 評価基準値 |
| | | 十分満足できる | 満足できる | やや努力を要す | 努力を要す | | AB の合計 |
| 音読活動 | (1)語のまとまり や言葉の響きな どに気をつけて 音読することが できたか。 | 「大きな声で読む」「間違えずに む」「間違えずに 正しく読む」「点 や丸に気を付け て読む」 (3つできた) | 「大きな声で読む」「間違えずに む」「間違えずに 正しく読む」「点 や丸に気を付け て読む」 (2つできた) | 「大きな声で 読む」「間違え ずに正しく読 む」「点や丸に 気を付けて読 む」 (1つできた) | 「大きな声で 読む」「間違え ずに正しく読 む」「点や丸に 気を付けて読 む」(1 つもで きていない) | ・授業観察・自己評価カード | |
| | 結果 | 43% (12 人) | 46% (13 人) | 11% (3人) | 0% (0人) | | 89% (25 人) |
| 書く活動 | (2)調べた遊びメモをもとに、順序に気をつけて遊びの紹介カードを書くことができたか。 | をもとに,「書き 方の技」を捉えて 書くことができ | 調べた遊びメモ をもとに、順序 に気を付けて書 くことができ る。 (技2~3つ) 50% (14 人) | 調べた遊びメ モをもとに順 序に気を付け て少し書くこ とができる。 (技1つ) 14% (4人) | 調べた遊びメ モをもとに、順 序に気を付け て書くことが できない。 (技0こ) 4% (1人) | ・授業観察・児童のワークシート・自己評価カード | 82% (23 人) |

表5 読みの評価(対象児童 28人)

(1)「語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができたか。」について

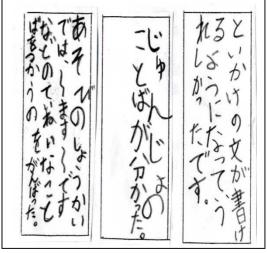
これまで、一斉読みや交代読みなど多様な形態で音読を行ってきた。また、毎時間の中で、児童に「大きな声で読む」「間違えずに正しく読む」「句読点に気を付けて読む」の3つの読みのめあてを持たせて、音読指導を行った。児童もそれらを意識して音読を行うようになった。

本時は、第9時間目で、交代読みを取り入れた。授業観察や自己評価カードからの結果から、89%の児童が、大きな声で正確に、句読点に気を付けて、ひとまとまりの語や文として読むことができた。このことから、多様な形態で読む機会を多く取り入れたことは、音読の楽しさを味わわせ、意欲付けになったといえる。

(2)「書く活動を取り入れた学習指導の工夫は、確かな読みの力を育てることができたか。」について

表5より、書く活動において、「調べた遊びメモを 基に、順序に気を付けて遊びの説明文を書くことが できたか」については、「十分満足できた」または、 「満足できた」児童は、82%であることが分かった。 また、やや努力する以下の児童が、18%いることも 分かった。

説明文を書く時、問いかけの文や順序を表す言葉を使って説明文を書くことができるようになったことが**資料1**の児童の振り返りカードからも分かる。それは、読み取りで学んだ表現の工夫を活かすために「書き方の技」を確認したからであると考える。書く活動を取り入れた学習指導の工夫は、確かな読みの力を育てることにつながったといえる。



資料1 児童の振り返りカード(第9時)

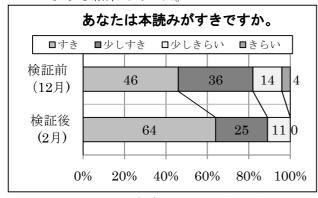
∨ 研究の結果と考察

研究の考察は、国語意識アンケート(検証授業前と検証授業後)、毎時間のワークシートと振り返りカード(自己評価)を基に行う。検証の方法についてはII-2の検証計画参照。

1 文字を正しく読むために、音読活動を工夫し音読の楽しさを味わわせ、意欲的に音読活動に取り 組む児童を育てることができたか。

(1) アンケートの結果から

音読の楽しさを味わわせ、文字を正確に読めるようになったかについてのアンケートは、次のような結果であった。



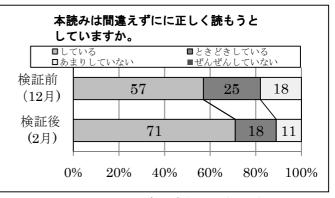


図2 本読みについて(28人)

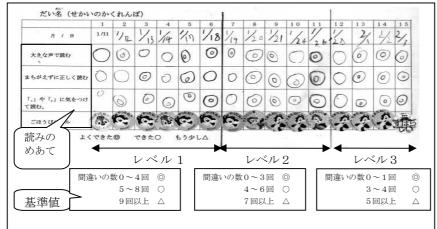
図3 正確に読むこと(28人)

図2は、「あなたは、本読みがすきですか」の問いに児童が答えた結果である。「すき」と答えた児童は、検証授業前で46%であったが、検証授業後では64%で、18 ポイント伸びている。図3では、「本読みは、間違えずに正しく読もうとしていますか。」の問いに対し、「している」と答えた児童は、57%だったのに対し、検証授業後は71%と14 ポイント伸びていた。2つのアンケートの結果から、音読の形態を工夫したことにより、音読の楽しさを味わわせ、意欲的に音読活動に取り組む児童を育てることができたと言える。

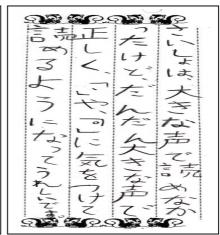
検証後の2つのアンケートの結果から、「本読みが少しきらい」「間違えずに正しく読もうとあまりしていない」という児童が11%いるが、検証授業前に比べるとその児童達も着実に読みの力がついてきていることが観察や音読テストを通して分かる。

(2) 音読カードの活用や児童の感想から

資料2の音読カードを活用し、読みのめあてを持たせ、評価の基準値を段階的に上げていくことによって、児童は音読の意欲が高まった。**資料3**の児童の感想からも、音読の練習をした成果や満足感が分かる。このことから、音読カードを活用した指導の工夫は、文字を正確に読む力を育てることに有効であったと言える。



資料2 音読カードの活用



資料3 検証授業後の児童の感想

2 「書く活動」を取り入れた学習指導を工夫することで、確かな読みの力を育てることができたか。

(1) アンケートの結果や児童の感想から

図4を見ると、「分かったことや感じたことを書くことができますか」の問いに対し、「できる」と答えた児童は、検証前で46%だったのに対して、検証後では、61%で、15 ポイント伸びている。それは、読み取りにおいてキーワードを手がかりに、サイドラインを引いて、ワークシートにまとめていく学習を繰り返し行ったことによって、正確な読みにつながった結果だと考えられる。また、資料4の児童の感想からも、書く活動を取り組んできた結果、内容の読み取りや読み取ったことを活かして書くことができるようになった満足感や達成感が得られたことが分かる。

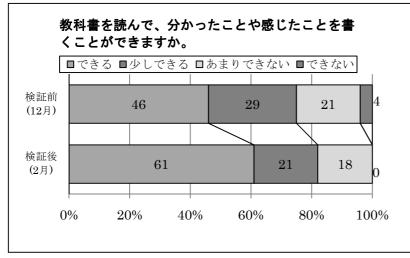


図4 書くこと(28人)



資料4 「書く活動」を振り返って 児童の感想より

(2) 読み取りで学んだことを書くことに活かすことができたかについて

第9時で児童は、調べた遊びメモを基に読み取りで学んだことを活かして、説明文を書いた。その際に、これまで学んできた表現の工夫「書き方の技」が書けたか自己評価させた。(資料5) 図5の結果から分かるように、それぞれの4つの書き方の技において「よくできた」「できた」と答えた児童が約8割いることから、書き方の技を使って説明文が書けていたことが分かる。また、資料6の児童が書いた説明文からも分かるように、読み取りにおいて、書かれている内容を正確に理解しながら筆者の表現の工夫にも気付き、書くことにつながったことは、書く活動の工夫が有効であったと言える。

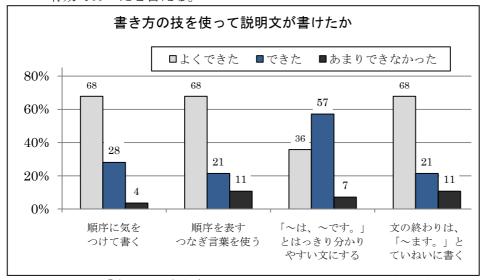
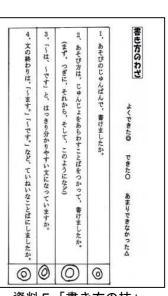
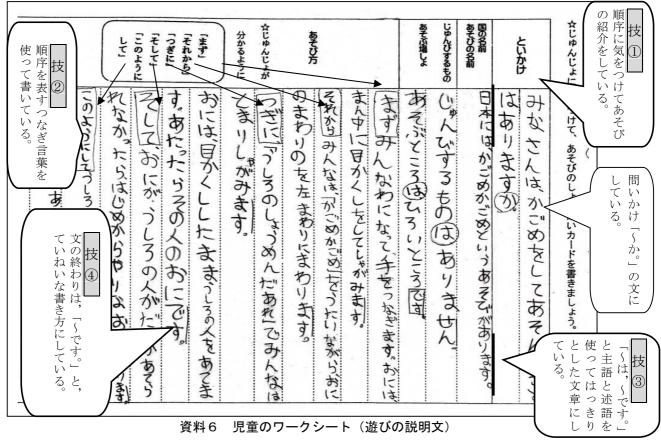


図5 「表現の工夫を書くことに活かせたか」について(28人)



資料5「書き方の技」 自己評価カード



(3) 相互交流の際の変容

資料7は、14時間目に実施したグループによる「遊びの紹介」の発表の様子である。読み取りで学んだ表現を活かして説明をしたり、聞き方を学び合ったりする学習である。資料8の発表会を終えての相互評価から、声の大きさだけでなく、順序を表す言葉や問いかけなど、表現の工夫も意識して発表したり、聞き取ったりしていることが分かる。目的意識や相手意識を持ちながら相互交流を行ったことによって、自己の表現を振り返ったり、友達の表現のよさを学んだりすることができた。さらに、実際にみんなで遊ぶことによって、紹介した遊びが正しく伝わったかを確かめ、学習の成果を実感することができた。(資料9)このことから、習得した表現を活かして相互交流を行い、習得と活用を往還したことで、確かな読みの力が育ったといえる。

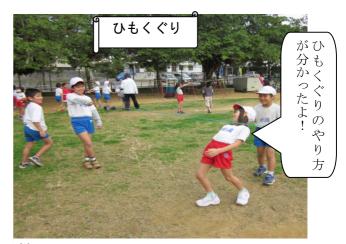


資料7「遊びの紹介」の発表の様子



資料8「遊びの紹介」の発表後の児童の相互評価カード





資料9 遊んでいる様子

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 音読の形態を工夫したり、読みのめあてを持たせたりしたことにより、意欲的に音読する姿が見られ、正確に読む力を高めることができた。(V-1-(1)(2))
- (2)「書く活動」を取り入れた学習指導を工夫することによって、内容を正確に読み取る力が育った。また、読み取りで学んだ表現の工夫を自分の文章にも活かして説明文を書くことができた。

(V-2-(1)(2))

(3) 習得した表現を活かして相互交流を行うことによって、自分の表現を振り返り、分かりやすく表現しようとする意識の高まりが見られた。習得と活用をつなぎ、往還することで確かな読みの力が育つことが分かった。(V-2-(3))

2 今後の課題

- (1) 効果的な音読活動の継続指導。(V-1-(1))
- (2) 「確かな読みの力」を育成するための継続的、系統的な指導の工夫。(IV-4(2))

〈主な参考文献〉

| 文部科学省 | | 『小学校学習指導要領解説 国語編』 | 東洋館出版社 | 2008年 |
|-------|----|------------------------|--------|-------|
| 石田佐久馬 | 著 | 『音読を読み取りにどう生かすか』 | 東洋館出版社 | 1993年 |
| 岸本 修二 | 編著 | 『読解力を高める説明的文章の指導 低学年』 | 東洋館出版社 | 2007年 |
| 白石 範孝 | 編著 | 『説明文の読解力向上を図る授業作り』 | 東洋館出版社 | 2010年 |
| 金久 愼一 | 編著 | 『言語活用力を高める説明文の指導』 | 明治図書 | 2010年 |
| 須田 実 | 編著 | 『わかる板書で読解力を高める 小学1・2年』 | 明治図書 | 2008年 |
| 白石 範孝 | 著 | 『書く活動が確かな読みの力をつける』 | 学事出版 | 2008年 |
| 堀江 祐爾 | 編著 | 『書く力がぐんぐん伸びる! | | |
| | | 「言葉のワザ」活用ワーク』 | 明治図書 | 2010年 |